

旧大名屋敷の流れを組む「戸定邸」を造る

江戸川を臨む高台に松戸市の観光名所・「戸定が丘歴史公園」がある。その中核施設は2階建ての旧大名屋敷「戸定邸」と「庭園」。いずれも文化財として価値が高いとして、国から指定を受けている。

戸定邸は平成18年(2006)、建造物として国の重要文化財の指定を受けた。名称は「旧徳川家松戸戸定邸」。内訳は、表座敷・中座敷・奥座敷・離座敷の各棟、玄関・台所棟、湯殿、内蔵、女中部屋である。

戸定邸建設の際、一緒に建物に隣接して造られた庭園も平成27年(2015)、芸術上、鑑賞上の高い価値を有するとして、国の名勝に指定された。名称は「旧徳川昭武庭園」である。

国の重文・名勝に指定されている戸定邸と庭園は、その名の通り水戸徳川家の当主、徳川昭武(1853-1910)が明治17年(1884)、旧水戸街道の宿駅であった松戸の丘陵上に水戸徳川家の別邸として建設した。戸定とは

所在地の小字名である。

当時、水戸徳川家の本邸は、旧水戸藩時代、下屋敷が置かれていた小梅(現東京都江東区向島、隅田公園)にあった。松戸は、小梅の本邸と水戸を結ぶ交通路上にあり、本邸からも近いことから別邸の建設場所選ばれたようだ。

徳川昭武(以下昭武)は、徳川幕府最後の将軍・徳川慶喜の弟。父は水戸藩9代藩主、徳川斉昭である。米国東インド艦隊司令長官ペリーが浦賀(現神奈川県横須賀市)に現れた年に生まれた。

慶応2年(1866)、御三卿(大名家)の1つ、清水徳川家を相続した昭武は、兄・慶喜の名代(代理)としてパリ万国博覧会参列のため、日本を出航した。慶応3年(1867)のことである。

欧州各国を歴訪し、その後パリに留学した昭武は、日本から大政奉還の知らせと維新政府の帰国命令を受け、明治元年(1868)に

徳川昭武

Tokugawa Akitake

帰国。兄で水戸藩主、徳川慶篤が亡くなったことから、水戸藩の11代藩主に就任することになった。

昭武は、藩内の対立から混乱していた水戸藩の立て直しに奔走。版籍奉還や廃藩置県といった目まぐるしい変化の中で、昭武は明治8年(1875)頃からたびたび松戸の地を訪れ、狩猟を楽しんでいた。気に入っていたのだろう。

明治15年(1882)、昭武は松戸の所有地に檜、松、杉などを植えている。戸定邸の「座敷開き」は、明治17年(1884)4月のことなので、この年に完成したようだ。その年の6月、昭武は母親を連れて戸定邸に移り住んでいる。

昭武は、戸定邸完成前の明治16年(1883)、亡き兄・慶篤の子、篤敬に水戸家当主の座を譲った。自らは隠居の身として戸定邸に移ってきた。

幕府崩壊、幕末の混乱、新政府の誕生と転換期の歴史を昭武は、戸定邸で、どんな思い

を振り返ったのであろうか。(文中敬称略)

主な参考文献

『戸定邸(旧徳川昭武松戸別邸)の保存修理に関する調査書』(平成3年、松戸市教育委員会発行)。『水戸市史 中巻(五)』(平成2年、水戸市史編さん委員会編集)など。



旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)の雪景色＝松戸市松戸
(写真提供:松戸市)

歴史ジャーナリスト

茨城県郷土文化研究会 会長
ヒタチノデザイン研究所 所長

富山章一

偉人から読み解く「回想」のヒント